

鹿児島県にあるしらゆきこども園様では、理念や園の方針など、皆で大事なものを守つていけるよう、毎年全職員揃い理念研修を行っています。研修では「自園らしさ」に意識を向け、今年はそれを付箋にあげ、自園の「理念設計図」をもとに分類・整理し理念と紐づけていくことに。3年前に比べ、皆から沢山の「自園らしさ」があがつたようで、そんな変化や成長を自分たちで感じられたことも嬉しかったと原田園長は仰います。

更に今回は続けて「幼児期の終わりまでに育つてほしい10の姿」との紐づけも行つたそうです。それにより「10の姿は大ににとつても備えておくべき姿だね」「自分たちが用意している環境は、10の姿を育む要素になっているね」などの発見もあり、皆の意欲や自信にも繋がったようです。他にも



模造紙いっぱいに「らしさ」が!

第46回保育環境セミナーでは、京都府にある鞍馬山保育園が自園の実践発表をされました。まず初めに『みんなのいのちかがやく保育園』という理念があり、子どもたち、保護者や職員、地域の方など、全ての人がいきいき出来ること、誰かの役に立つことを喜べることの大切にしたいという願いが込められているとお話しがありました。

私たちも皆と一緒に改めてこれまで振り返り、誰かに正解を求める試行錯誤を楽しんでいきたいです。

私たちも皆と一緒に改めてこれまで振り返り、誰かに正解を求める試行錯誤を楽しんでいきたいです。



取り組みも発表も、理念という軸があるかどうかで伝わるものは全く変わってくるかもしれません。

上記記事に引き続き、新宿園の調理担当者は大きな魚をおろした経験がなく、料理旅館を営んでいる保護者に相談しました。そこで、お店の調理場を使って板前さんからアドバイスを教えていたところ、おろし方を教えていたところ、それはまさに目的のために、調理担当者、食育担当保育士、保護者が力を合わせることが出来た「みんなのいのちかがやく」取り組みだったと仰います。

開園当初は、子どもたちが自発的に行動できなかったり、言葉で伝えられず衝動的に噛んでしまったりすることが出来た「みんなのいのちかがやく」取り組みだったと仰います。

開園当初は、「幼児の育ちは2歳、1歳、0歳の育ちが大事では」ということになり、次に4つの実践をはじめられました。(1)0~1歳児クラスの子どもたちを発達で3チームに分ける(1歳児の高月齢のチーム、1歳児の低月齢&0歳児の高月齢のチーム、0歳児の低月齢のチーム)と、(2)0~1歳児の活動を担当する(3)週案を0~1歳担当が一緒にたてる(4)翌日の

活動の流れをポートを使ってシミュレーションする。この実践によって0歳児の担任も1歳児の担任もこれまで以上に子どもたちの発達を考えようということになつたそうです。

セミナーに参加したある園では、この発表を聞き「正解かどうかよりもまずはやってみよう!」と、早速1歳児の保育室を見直し始めたとお聞きしました。

先生方の実践が、他園の背中を押す第一歩になつていてことを感じ、改めて子どもたちのために園全体で見直していく大切さを感じました。

【2~5歳の午睡について】保育所保育指針を読み返したり入眠状況の一覧表を作ったり保育士同士話し合う実践も!

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館1階



第100版

理念と実践で 絆を結びます

理念実践の発表

実践が背中を押す

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤグループの出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようよろしくお願ひいたします。

CCN

Caguya Company News

カグヤニュース

おかげさまで『竹取新聞』は第100版を迎えました。2009年8月の創刊号から約8年。全ては皆様のご支援とご協力の賜物です。本版裏面では育休中や退職した歴代編集長の協力のもと、これまでの試行錯誤の変遷について紹介させて頂きます。これからも理念と実践で絆を結んでいければと思いますので、今後とも何卒よろしくお願い致します。

この竹取新聞の始まりはほんの遊び心から。きっと面白いだらうと書いた一枚は、共に働く仲間に向けて、その人柄や熱意、そこから生まれた事件やドラマを描いた社内新聞でした。

閲覧された時、照れつとも笑顔になる仲間を見て『共有する愉しさ』と『振り返る喜び』と言う価値に気付かせてもらいました。勢いで始めたことが一步踏み出しだけで、周りのエネルギーのおかげで深みと拡がりを見せたのです。恥ずかしながら…面白いことがした

五年前、竹取新聞はモノクロからカラ一になり、園様やカグヤでの実践を主軸とした内容へと一新されました。実際、それまで慣れ親しんだパターンを変えるのは、決して簡単なことではありませんでした。作成スケジュールも変わり、何もかもがテンヤワニヤ。入稿期限がギリギリで、移動途中の空港で校正になつたり、掲載内容を巡って校正会議ではクルー同士が大喧嘩。今思えばよく途絶えなかつたと思うことばかりです。でもその度に、みんなで「何のた



本版100号では大事な節目として、これまでの『竹取新聞』の歴史を振り返りながら、各々からやつてみたいことなどの意見やアイデアを出し合い、完成することができました!今回も本気だからこそ!社内では喧嘩が勃発...笑

刷新

め』を振り返り、理念や実践への想いや、絆を強くしていったように思います。今後も竹取新聞は続きます。これらも目的を見失うことなく刷新し続けていきたいと思います。



記念すべき創刊号!
当初は白黒片面の新聞でした。



創刊号の翌年には、より日常的な
クルーの姿を届ける「特別号」を
家族向けに作成したこと。

始まりからの発展

この竹取新聞の始まりはほんの遊び心から。きっと面白いだらうと書いた一枚は、共に働く仲間に向けて、その人柄や熱意、そこから生まれた事件やドラマを描いた社内新聞でした。

閲覧された時、照れつとも笑顔になる仲間を見て『共有する愉しさ』と『振り返る喜び』と言った価値に気付かせてもらいました。勢いで始めたことが一步踏み出しだけで、周りのエネルギーのおかげで深みと拡がりを見せたのです。恥ずかしながら…面白いことがした

かっただけの私は、定期発行になると、時に鬼の編集長と化してひたすら作ることに追われた時期もあります。始め

ことよりも続けることの難しさを痛感したのも事実、ただ同時に、仕事のあり方や進め方を見直す機会にもなり、変化や進化によって新しい価値や楽しみを教えてもらったのも事実です。関わった仲間の力と踏ん張り、そして皆様の見守りと励ましのおかげで今までの竹取新聞があります。今までの歴史と沢山の方々の力が凝縮された一枚であることを忘れずにいたいと思います。

磨いていただけた

100号を迎えるにあたり、クルーでこの竹取新聞について振り返りを行ったときのことです。改めてこの竹取新聞が始まった時のことと思い返す機会となりました。

「カグヤのことを知つていただきたい。」そんな思いでお客様にお届けするようになつたこの新聞は、皆様からのご指導ご鞭撻のお陰様で、「お客様の素敵なお保育実践をお伝えしたい」という思いの【裏面】と「子ども第一義の理念実践の現状をお伝えしたい」という思いの

100年と1000年

日本には2017年時点で創業100年を超える老舗企業が約3万3000社以上もあるとされ、さらに世界中に存在する創業2000年を超える企業のうち、実に50%以上が日本企業だといいます。そして創業100年以上の企業の96%が従業員数300人未満の企業、いわゆる中小企業だともいいます。

どの企業も拡大を良しとする今の潮流に対し、低成長を善とそれを維持するのはかえつて至難の業かもしれません。

先日ある老舗の経営者の話の中で「私たちは100年継続することを目指しているのではありません。私たちは100年かつて実現する事業に取り組んでいます」という言葉に出会いました。

100年を懸けて実現するという事業には、偉大なロマンや夢、理念や伝統の素

100号を迎えるにあたり、クルーでこの竹取新聞について振り返りを行ったときのことです。改めてこの竹取新聞が始まった時のことと思い返す機会となりました。

「カグヤのことを知つていただきたい。」そんな思いでお客様にお届けするようになつたこの新聞は、皆様からのご指導ご鞭撻のお陰様で、「お客様の素敵なお保育実践をお伝えしたい」という思いの【裏面】と「子ども第一義の理念実践の現状をお伝えしたい」という思いの

【裏面】という形に変わつてきました。

8年という年月の中で、その時々にござでこの竹取新聞について振り返りをする感じがします。そして同時に、この新聞

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



本社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング2号館10階
tel.03-5909-7155
fax.03-5909-7199

カグヤウェブセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

フリーダイヤル 0120-917-389
URL: <http://www.caguya.co.jp>
E-mail: support@caguya.co.jp
受付時間 月～金 9:00～18:00
(土・日曜祝祭日を除く)